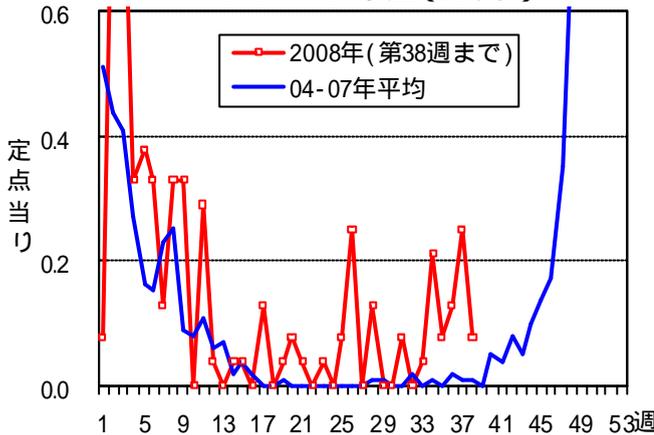


**コメント**

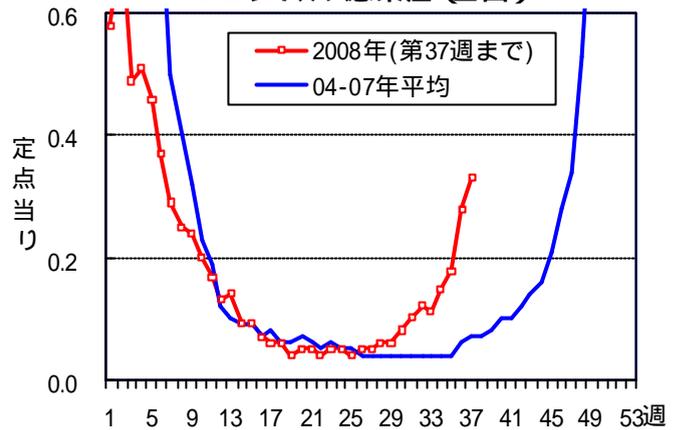
第38週は全般に報告数が少なくなっています。

なお、例年冬季に流行するRSウイルス感染症は、広島市では、この時期としては多い状態が続いており、全国的にも同様の傾向となっています。

RSウイルス感染症 (広島市)



RSウイルス感染症 (全国)



**5類感染症報告状況 (定点把握対象分)**

疾患名	報告数	定点当り	平過平均去5年(注1)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平過平均去5年(注1)	発生記号
インフルエンザ(注2)	-	-	-		ヘルパンギーナ	6	0.25	0.41	
咽頭結膜熱	3	0.13	0.22		流行性耳下腺炎	2	0.08	0.60	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	18	0.75	0.54	↘	RSウイルス感染症	2	0.08	0.01	
感染性胃腸炎	67	2.79	3.40	↘	急性出血性結膜炎	-	-	-	
水痘	17	0.71	0.40	↘	流行性角結膜炎	-	-	1.15	
手足口病	8	0.33	0.21	↓	細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
伝染性紅斑	5	0.21	0.19		無菌性髄膜炎	-	-	0.06	
突発性発しん	23	0.96	0.81		マイコプラズマ肺炎	3	0.43	0.20	
百日咳	4	0.17	0.06		クラミジア肺炎(注3)	-	-	-	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.15～2の増減
微増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

報告数が少ないなど、傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

(注1) 過去5年間 (RSウイルス感染症は4年間) の同時期平均 (定点当り)  
 (注2) 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く  
 (注3) オウム病を除く

**1類～5類感染症報告状況 (全数把握対象分)**

類型	疾患名	報告数	累積	備考
2	結核	1	152	女性(60歳代)・1人

## 5類感染症報告状況の推移 (定点把握対象分)

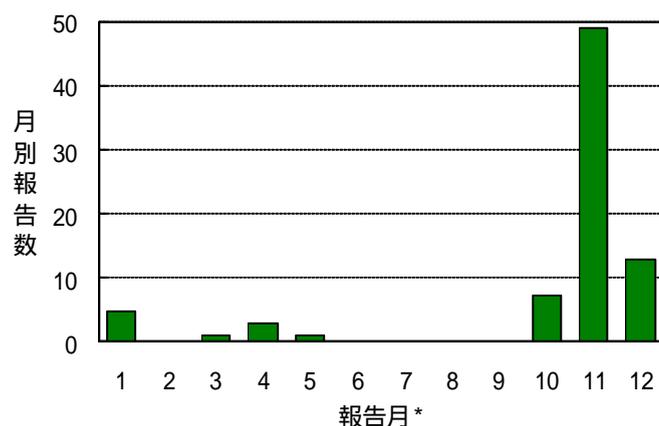
報告数	定点当り	週	インフルエンザ (注1)	咽頭結膜熱 球菌咽頭炎	A群溶血性レンサ	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎 (注2)	
																					報告数
広島市		第34週	-	10	13	67	12	21	4	21	3	18	2	5	-	3	1	-	-	-	-
		第35週	-	4	22	69	13	29	10	29	2	14	1	2	-	3	-	1	-	-	-
		第36週	-	4	23	94	22	26	5	34	2	17	2	3	-	4	-	2	1	-	-
		第37週	-	6	28	94	21	19	4	23	3	12	3	6	-	8	-	-	1	-	-
		第38週	-	3	18	67	17	8	5	23	4	6	2	2	-	-	-	-	3	-	-
広島市		第34週	-	0.42	0.54	2.79	0.50	0.88	0.17	0.88	0.13	0.75	0.08	0.21	-	0.38	0.14	-	-	-	-
		第35週	-	0.17	0.92	2.88	0.54	1.21	0.42	1.21	0.08	0.58	0.04	0.08	-	0.38	-	0.14	-	-	-
		第36週	-	0.17	0.96	3.92	0.92	1.08	0.21	1.42	0.08	0.71	0.08	0.13	-	0.50	-	0.29	0.14	-	-
		第37週	-	0.25	1.17	3.92	0.88	0.79	0.17	0.96	0.13	0.50	0.13	0.25	-	1.00	-	-	0.14	-	-
		第38週	-	0.13	0.75	2.79	0.71	0.33	0.21	0.96	0.17	0.25	0.08	0.08	-	-	-	-	0.43	-	-
全国		第36週	0.01	0.49	0.84	3.07	0.56	1.81	0.08	0.83	0.04	1.09	0.39	0.28	0.02	0.83	0.02	0.04	0.37	0.02	0.02
		第37週	0.01	0.41	0.89	3.02	0.47	1.77	0.07	0.83	0.03	1.00	0.47	0.33	0.03	0.83	0.01	0.05	0.40	0.02	0.02

(注1)鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く (注2)オウム病を除く

## 新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者 年齢	性別	発症 年月日	検査材料	検出病原体
無菌性髄膜炎	0	男	2008/08/07	髄液	パレコウイルス3型
無菌性髄膜炎	9	男	2008/08/07	糞便	コクサッキーウイルスA2型
無菌性髄膜炎	10	女	2008/08/13	髄液	エコーウイルス30型
無菌性髄膜炎	8	男	2008/08/15	髄液 糞便	エコーウイルス14型
喉頭炎	1	女	2008/07/08	咽頭拭い液	パラインフルエンザ3型
心筋炎	不明	女	2008/07/12	咽頭拭い液	パレコウイルス3型
中毒疹(疑)	0	女	2008/07/19	糞便 鼻汁(拭い液)	パレコウイルス3型
腸重積	1	男	2008/07/20	糞便 鼻汁(拭い液)	エコーウイルス5型
発疹性疾患	0	女	2008/07/25	髄液 糞便	パレコウイルス3型
熱性疾患	1	女	2008/07/29	鼻汁(拭い液)	パレコウイルス3型
不明熱	0	女	2008/07/23	咽頭拭い液	パレコウイルス3型
不明熱	0	女	2008/08/09	糞便 鼻汁(拭い液)	パレコウイルス3型

## 【参考】広島市におけるつつが虫病の月別報告数



(2000年～2007年の累計)

### つつが虫病に注意しましょう!

つつが虫病は、ツツガムシというダニの幼虫に刺されることによって感染する病気で、広島市では毎年秋から初冬にかけて多くなります。

今シーズンはまだ報告はありませんが、山林や草むらに入るときは、長袖、長ズボン、長靴、手袋などを着用して、ツツガムシに刺されないよう注意が必要です。

(注)左のグラフの月は報告月です。11月の報告数が最も多くなっていますが、ツツガムシに刺されてから発病するまでの潜伏期間と、確定診断後、報告されるまでの時間を考慮すると、報告日より1か月ぐらい前に刺されている場合が多いと思われます。したがって、10月頃が感染する機会が最も多いと考えられます。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

#### 【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号  
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail [ei-seikatsu@city.hiroshima.jp](mailto:ei-seikatsu@city.hiroshima.jp)

2008年第38週 (9月15日～9月21日)